

2021/5/14

(うと Q 的経済夜話)「この世は將に、ままならず」改題

以下は全て私見です。

「お金は使わなくては (お金は) 入ってこない」

という記事を前回書きましたのは、我が国国民の過度の貯蓄性向を想定してのことでしたが、それに対してあるお方から

「それは明治時代の富国強兵という国策の名残だろう」

という趣旨のメッセージを戴き、そこから又先を考えて見ました。

「なんで、貯金が富国強兵に役立つのか？」

で、考えて見た処

「国債」

という「想定解」が出てきました。

詰まり、貯金を推奨する。貯まった処で無理矢理国民に国債を買わせて戦費を調達する。しかし、国債と言うのは国民が債権者で国が債務者ですから、いずれ国は償還という形で、借金に利子を付けて国民に返さなくてはならない。

ところが、そこに敗戦。

国があるやらないやら、はっきりしない状態の上に、戦後のデノミで新円に切上がってしまった。最低金額一厘が 1 円に切上がったと言う事は、逆に言うと 10000 円が 1000 分の 1 の 10 円 (の額面価値) になってしまった。

国債保有者は大損。

で、戦後はそれに懲りた国民は、今度は銀行に預ける様になった。

折しも戦後の朝鮮動乱特需や、その後の高度経済成長で銀行は企業に、国民が預けたお金をどんどん融資し、たんまり儲けた。そのお裾分けで国民も年率 7% 位 (確か自分が中学生の頃、そんな記憶があります) の利息を得る事が出来た。

1000 万預けたら 70 万円。1 億なら 700 万円。10 億なら、なんと 1 年で 7000 万円の利息が付く訳です。貯金すればする程、遊んで暮らせる。

ウハウハです。

しかし、是では預貯金は企業の融資には回りますが、国民の購買量は上がらなくなる。

是ではこの先企業もヤバイ、と思って、今度お国が言い出したのが「消費は美德」の宣伝。それで再び経済は伸び始めましたが、今度は環境汚染やら公害やらの副産物が。

で、そうこうする内に過熱気味の経済 (実体経済より金融経済) のバブルが弾け、その後「失われた 30 年」が始まった。

最近では、更にマイナス金利というもの迄。

要するに銀行に 100 万円のお金を預けておくと、1 年後には増えるどころか 99 万円になって目減りする政策。

意図は、貯めておいても仕方が無いので「投資に回そう」という気持ちを起こさせ、お金の

流れを良くしようとした。

ところが、是又々、その預金が引き出されて行った先は、実体経済ではなく株式や商品相場へ。

早い話、是が格差の元。

詰まり、お金持ちが株式や商品に投資をして益々儲ける反面、お金のない、又投資概念の希薄な「庶民」は単に預金が目減っただけ。

で、仕方なく窮余の一策として「タンス預金」が増える。

それが「今」

なので、少なくとも使わせる側は「経済原則」以前に、この世は、様々な層の「心理変数」の合成ミックスで動くのだと言う事を「まず」理解し、そして我々使う側は「蜘蛛の糸」のカンダタ行為を慎んだ上で、それぞれが、互いのズレを努力して縮めるべき気が致します。。